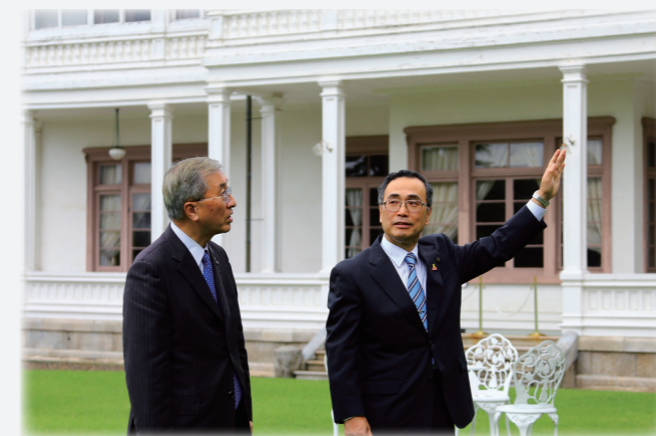


目次

今月の表紙・人口・主な連絡先	P2
第42回文化賞	P3
特集 平成30年4月鳥取市・松江市は中核市へ	P4-5
特集 世界に羽ばたくととりの子をめざして	P6-7
年末年始のお休み、シリーズ@じんけん	P8-9
まちかどアルバム、中核市お知らせコーナー	P10-11
健康・病院	P12-13
ピックアップインフォメーション	P14-19
市民政策コメント、職員募集	P14
子育て世代包括支援センター愛称決定	P15
浄化槽の正しい維持管理、シリーズ「カレー新時代」	P16
災害等緊急対策資金利子補助制度、びよんびよん番組ガイド	P17
生活環境課からのお知らせ、市民体育祭総合成績	P18
上半期のごみ排出量、河川の水質 など	P19
情報ひろば	P20-28
福祉	P20-
お知らせ	P21-
募集	P22-
シリーズ鳥取市で頑張る企業を紹介します、図書館だより	P25
市民伝言板、公立鳥取環境大学情報	P26
公立鳥取環境大学ってこんな大学	P27
鳥取県の最低賃金、消費者トラブル講座 など	P28
無料相談	P29
各施設のイベント情報	P30-31
12月のカレンダー、読者プレゼント	P32

今月の表紙

中核市移行決定！鳥取・松江両市長対談



平成30年4月1日、本市は中核市へ移行します。同じ日に中核市へ移行する島根県松江市の松浦市長を仁風閣にお招きし、深澤市長と対談しました。

県庁所在地であり山陰地方の中心都市である松江市と鳥取市。中核市移行、山陰新幹線や高速道路ネットワークの整備など、共通の話題や課題も多くあります。

対談は、終始和やかな雰囲気で行われ、中核市移行のほか、今後の広域連携の可能性についてもお話いただきました。

※対談の様（中核市部分）は4～5ページに掲載しています。
※びよんびよんネットでもこの対談の様を放送予定です。



PUBLIC INFORMATION

とっとり市報 No.1088

鳥取市の人口

男 : 91,582人 [- 1]
女 : 98,419人 [- 28]
合計 : 190,001人 [- 29]
世帯数 : 79,804 [+ 54]
平成29年11月1日現在 [] 内は前月比

防災行政無線の内容は電話で確認できます

防災行政無線の放送内容が聞き取れなかったときなど、放送内容の確認をしたいときは、「防災行政無線放送内容確認ダイヤル」へお電話ください。
※本庁舎から一斉放送したものに限りです。

TEL **0857-21-6100**

鳥取市役所

TEL 0857-22-8111(代)
FAX 0857-20-3040
〒680-8571
(郵便物は郵便番号と課名のみで届きます)
本庁舎 尚徳町116番地
第二庁舎 上魚町39番地
駅南庁舎 富安二丁目138番地4

鳥取市ホームページ

http://www.city.tottori.lg.jp/
音声読み上げなどの支援機能があります

携帯電話対応ホームページ

http://www.city.tottori.lg.jp/mobile/

電子メール

kouhou@city.tottori.lg.jp

各総合支所

国府 TEL 0857-39-0555
FAX 0857-27-3064
福部 TEL 0857-75-2811
FAX 0857-74-3714
河原 TEL 0858-76-3111
FAX 0858-85-0672
用瀬 TEL 0858-87-2111
FAX 0858-87-2270
佐治 TEL 0858-88-0211
FAX 0858-89-1552
気高 TEL 0857-82-0011
FAX 0857-82-1067
鹿野 TEL 0857-84-2011
FAX 0857-84-2598
青谷 TEL 0857-85-0011
FAX 0857-85-1049

お持ち帰り用の市報を、地区公民館などに設置しております。どうぞご利用ください。

おめでとーうございます！ 第42回鳥取市文化賞

11月3日、市の文化・芸術の振興に功績のあった人をたたえる「鳥取市文化賞」の贈呈式が仁風閣で行われました。
このたび受賞されたみなさんをご紹介します。
問 本庁舎文化交流課 TEL 0857-20-3040 FAX 0857-20-3226



【舞踊】
さぶり いくよ
佐分利 育代さん
68歳(高住)

昭和50年から40年間、鳥取大学に勤務し、さまざまな障がいのある子どもの学習に関する研究、実践を行う。障がい児・障がい者のダンスおよびインクルーシブダンスにおいては、日本を代表する研究者として知られている。

また、地域においては、昭和53年、鳥取聾学校の井上茂子さんなどとともに、「鳥取モダンダンス愛好会」(現ダンスコング)を結成。翌年には「私たちはこんな踊りが踊りたい」とサブタイトルをつけた初めての公演を開催。以来、毎年公演を開催している。障がいのある人とない人の統合ステージでは、さまざまな人が共に生きる社会、活かし合い、力を発揮し合う社会を、作品の中で実現させ、作品そのものとして高い評価を受ける。

鳥取大学を退官した現在も、後進の育成に尽力し、鳥取舞踊文化の普及に努めている。



【染織】
やました たけし
山下 健さん
62歳(青谷町河原)

高校卒業後、大因州製紙協業組合に入社。会社の業務で、染織家の柳悦孝さんと柳悦博さんに、糸づくりから仕上げまで染織全般を学ぶ。その後、染織の道一本で生きていくことを決意。同社を離れ、生まれ故郷の青谷で染織家を志す。

昭和51年、第50回国展に初入選。現在、国画会の染織部門を代表する作家の一人として、全国に広く知られている。

一貫して自然豊かな青谷を舞台に、天然染料ならではの優しく深みのある色合いの着尺や帯の制作に取り組んでいる。素材には徹底的にこだわり、「色」、「デザイン」、「風合い」、それらがバランス良く調和した独自の表現を追求。優しい布でありながら、凛とした格調のある作品は、高い評価を受けている。

県内外での個展・グループ展を意欲的に開催し、鳥取染織界の向上を推し進めている。



【洋画】
もりた しのぶ
森田 しのぶさん
61歳(面影)

大阪芸術大学卒業後、平成2年に自由美術展初入選、以来連続入選し、佳作賞を受けて平成12年に会員推挙となる。鳥取市民美術展、鳥取県美術展覧会でも入賞を重ね、現在、無鑑査作家として活躍している。また、県内外での個展・企画展を意欲的に開催し、その存在を強烈にアピール。今年6月には、「ギャラリーあんど」最後の企画展を飾ったことでも注目を集めた。作風は「生命の回想」をテーマに制作しており、皮膚、被膜にからまる感覚の世界を神秘的に、ブルーな色彩とリアリティのあるフォルムを融合させ、調和を図ることで作品を形成。自然界の生物体を基に、生命の回想が果てしなく営まれていく世界観を展開している。

川上奨励賞、自由美術展競光賞を受賞するなど、本市の美術文化の振興に大きく貢献するとともに、今後の活躍が大いに期待される。